



愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！猛暑の日々が続いている中みんな先週一週間もお元気でしたか。始まったこの8月にも共に恐れないで絶対信仰を持って歩めるために今日の御言葉の箇所を持って学びたいと思います。

イスラエルの民たちは40年間の荒野でのすえにたっています。神様が約束されたカナンへの地に入る直前でした。待ちに待っていた神様の約束の地に入る直前、モーセは神様が啓示された御言葉だけで、聴いていたその約束の地が本当にどんな地なのか確かめるために神様の命令に従って(13章以下)イスラエルの12部族からひとりづつ選ばれた12人を偵察に行かせます。果たして、イスラエルの民が定着していける地なのか。そして、我々の力で、そのカナンへの地に住んでいる敵たちと戦って、征服できるのか。神様の約束された事や祝福を頂けるために、神様からの信仰のテストやチャレンジの時でした。

この事実を確認させるために12人をさきに遣わします。そして、四十日間カナンへの地の偵察を終えて帰ってきた12人は報告をします。今日のその内容の本文です。

まず10人が先に報告します。彼らはとにかく不可能だと報告します。

“いま持っている我々の力と兵力(へいりょく)では約束の地、カナンへの地を征服することはできません。それだけではなく、その地は人の住めるところでもありません。もうあきらめましょう。”といひます。すると残りの二人は“違います。できます。その地はまことに神様の約束された美しい地です。とりあえず、やってみましょう。”と異なった報告をします。

我々はこれを見方の違いだと言います。この12人が見た状況は同じで、彼らは同じ地に行ってきました。同じ環境、同じ場所を見たわけですが、それを見てきた人たちのライフスタイルはまったく違いました。我々の人生もそれぞれそんなに違いはないかも知れません。我々の人生においてどんな観点で見て生きているのか、どんな見方で見るのかによってみなさんと私の行き方は違ってくると思います。なぜこのような違さが出て来てしまったのでしょうか。

<1. 信仰者の不信仰 >

今日の聖書の内容にもっと深く調べて見ましょう。

まず、十人がカナンへの征服は不可能だと考えた原因を考えて見ましょう。

どうして、否定的な判断をしたのでしょうか。その原因を民数記14章11節で見ることができます。

“主はモーセに仰せられた。「この民はいつまでわたしを侮(あなど)るのか。わたしがこの民の間で行なったすべてのしるしにもかかわらず、いつまでわたしを信じないのか。」”

愛する信仰の家族のみなさん！10人の彼らはどんな人たちでしたか。信じていない人たちです。神様を信じていないということです。

当時、イスラエルの民が神様を信じていないということは考えられないことです。イスラエルの民たちはどんな人たちでしたか。

本来、彼らは神様に選ばれた民であり、信仰の民でした。イスラエルの民はエジプトの奴隷生活から神様の御力によって奇跡的にエジプトから救い出され、この荒野の道に入り、40年間も死の荒野での生活から守られ、ようやく神様の約束の地、カナンへの地を目の前にしている状況でした。

イスラエルの民は神様を信じている人たちです。しかし、荒野の道を歩む中で、困難にぶつかり、苦しかったため、目の前にある困難に神様を信じるその信仰を現実の状況に適用させていません。我々も神様を信じます。心から信じます。神様を信じていると言います。しかし、目の前に何か困った事にぶつかったら、後ろにひきませんでしたか。

信仰をもっているのに現実の環境を乗り越えることができません。信仰をもってその難しい障害物を取り除くことができません。それが我々の問題ではありませんか。

信仰はあるのに信仰がない人！これをまさしく信仰者の不信仰と言います。我々の意識の底には神様への意識があり、過去神様を体験したこともあります。今自分の目の前においてある具体的な難題(なんだい)と状況では自分の持っている信仰を働かせることができない、その信仰を訓練させることすら知らない人々、それが当時イスラエル人たちの悲劇でした。

そういうわけで、彼らは“まさか、あのカナンへの地を征服できるはずがあるのか。到底不可能だろう”我々は何の軍隊の訓練も受けてないし、準備もできてないのにこの民の人々を連れて何ができるのか。実際、入って見たらそんなに魅力的な地でもないし。大したところではありませんよ。だからみなさんもうあきらめましょう。“そういうわけで我々はあきらめてしまいます。そして、なんの意味もなく一日一日を過ごします。

みなさんはいかがでしょうか。実際の諸問題(進路・仕事・勉強・学校の生活・付き合い・結婚・人間関係・家庭の中)に関して信じている信仰を實際適用し、生かし、働かせていますか。すでに信仰を持っていますけど、生かせない事をそれがまさにクリスチャンにとって一番残念なことではないでしょうか。それが信仰者の不信仰なのです。

<不信仰がもたらす二つの反応>

不信仰は大體二つの反応をもたらします。

まず、32節を見ると出て来る単語が‘悪評(あくひょう)’つまり‘悪く言いふらす’という単語です。

“彼らは探って来た地について、イスラエル人に悪く言いふらして言った。”

この10人の口からは信仰の言葉、感謝も、満足もなく、肯定的な(神に対する頼り、信頼、神の御心)考えはどこにも見られません。

愛するみなさん！信仰がない目でこの世を見ると悪評することしかありません。

“その地は人の住めるところではなく、かえって人を食い尽くす地です。”これが12人の中で10人の多数の偵察者の告白でした。

どうして10人の偵察者たちはそのような結論を出したのでしょうか。信仰がないまま、完全に神様にゆだねきってないまま、はたして自分たちの力であの地を征服できるのか。信仰のない基準で見れば当然、できない！という結論に至ったのです。

その時、彼らの思いにやってくることは何ですか。恐れです。彼らは目の前のことが恐れて来ました。そして、その心が悪評として表されました。つぶやくしかありません。“もうやめましょう。仕方ありません。どんなに頑張っても意味がありません。”

愛するみなさん！その十人の否定的なコメントは十人だけで終わりませんでした。否定的な言葉はイスラエル共同体全体と回りの人々に悪影響を与えるということにもっと大きい問題があります。

14章1節を見て下さい。彼らの言った言葉によってイスラエルの民は大声をあげて叫び、夜、泣き明かし、モーセとアロンにつぶやいたと書かれています。今まで恵まれたこと、奮闘し、戦いながら勝利したことまで全部無駄だったのように民全体が絶望に陥ってしまったのです。これが不信仰がもたらしたはじめての悲劇の結果です。

しかし、さらに問題は問題を大げさにさせるということです。

みなさんは何かの問題を大げさにするくせはありませんか。大げさに言ったり、大げさに反応するくせはないでしょうか。私たちは時々、自分がやりたくない時、そして、できない時、‘私はできない。’と言います。そして、しきりに自己合理化のために大げさにする傾向が人々にあります。“それはだれでも決してできない。”とそのように考えます。

今日10人の不信仰の偵察者たちは“あれは人の住める地ではありません。”まさか、そんな地を神様が約束されたはずがないでしょうと考え、報告しました。それこそ大げさです。

そして、約束の地、カナアンに住んでいる人々の背がどれだけ高かったのか、自分たちとは比べられないほどだと言っています。彼らはおとつても巨人で、彼らの前で、自分たちはいなごのような小さい存在だと比較します。どれだけ大げさでしょう。大げさに自虐(じぎやく)と自己憐憫に陥られています。

このように問題を大げさにし、もう無理だと思い始めると、私たちはますますそのように信じ始めてしまいます。これこそが大変なことです。なぜなら、このように大げさに考えてしまうと、結局自己卑下(じこひげ)や自己憐憫、自己劣等感に陥ってしまい、まるで自分の存在がいなごにすぎない存在だと信じ込んでしまうこの流れと結果をいつも警戒しぜひ忘れないで下さい。

数年前、アメリカの無名のあるクリスチャンが書いた「私を非難してはいけません。」という主イエスキリストの心の痛みを訴えた詩が多くの人々に感動を与えました。一度聞いて見て下さい。

あなたがたはわたしを主と呼んでいながら従おうともしないで、
わたしを全能と呼んでいながら、心から頼ろうともしないで、
あなたがたはわたしを命だと呼んでいながら手に入れようとしなくて、
あなたがたはわたしを知恵だと呼んでいながら探そうともしないで、
あなたがたはわたしを富だと呼んでいながら慕い求めようとしなくて、
あなたがたはわたしを永遠だと呼んでいながら見上げようとしなくて、
あなたがたはわたしを真実だと呼んでいながら信頼しようとしなくて、
あなたがたはわたしを尊いと呼んでいながら仕えようとしなくて、
あなたがたはわたしに栄光あれと祈りながら、栄光をささげようとしなくて、
あなたがたはわたしに公義であると言っているが、恐れようとしなくているのだから
わたしがあなたにさばきをくだす時に、わたしを非難してはいけません。

我々は神様を信じていると言いながら、不信仰の姿はなかったのかもう一度深く探り、このような神様からのさばきを受けることがないように心かけましょう。

＜神様への眼差しを持っていた人たち！＞

しかし、十人の大多数(だいたすう)の態度とは違った生き方をしている二人の姿によって私たちはチャレンジを受けます。二人の偵察者たちは興奮しています。彼らの名前はヨシュアとカレブと呼ばれた人たちでした。

彼らが約束の地であるカナンを見て来た現実はそのそれとまったく同じなのに、この二人はなぜか反対に興奮しながらこのように言い張ります。

“一度ぶつかって、やってみる課題です。まあ、いったんやってみましょう。神様が助けて下さるから、かならず、勝利をおさめるでしょう。”

愛するみなさん！少数(しょうすう)のこの二人に勇気と積極的な生き方を持たせた原動力は何でしょうか。

民数記14章6-9節を読んでみましょう。

“すると、その地を探って来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブとは自分たちの着物を引き裂いて、イスラエル人の全会衆に向かって次のように言った。「私たちが巡り歩いて探った地は、すばらしく良い地だった。もし、私たちが主の御心にかなえば、私たちをあの地に導き入れ、それを私たちに下さるだろう。あの地には、乳と蜜とが流れている。ただ、主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。彼らの守りは、彼らから取り去られている。しかし主が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れてはならない。」

彼らを大胆にさせたのはまさしく信仰でした。つまり神様に対する絶対信頼です。

愛するみなさん！信仰とは何でしょうか。

今日の本文のメッセージを通して信仰への定義を得られます。それは信仰とは神様の視線(目)を持つことです。

以前は自分の目だけを持って生きました。しかし、信仰をもってイエス・キリストを自分の救い主、主として受け入れた瞬間、聖霊様が私たちの心に住まわれるその時から、私たちは神様の目を持ち始めました。

信仰生活とは何ですか。信仰によって生きるとは人生を神様の目で見ることです。神様の目をもってこの世を見たと違います。人の目では住めるところでないように見えても、神様の目で見るととても美しい地に見えるのです。ヨシュアとカレブは神様の目をもって見たので、大胆に自分たちの見たことを報告することができたのです。この信仰の二人の偵察者たちは人生に神様を計算に入れませんでした。

愛するみなさん、十字架はたす記(しる)しではありませんか。自分の人生に神様をたしたら、そしていつも自分に神様の視線を加え状

況を見たら、自分の目だけで見たときはまったく違ってくるのです。できなさそうな、到底超えなさそうな問題にぶつかった時、いらいらしたり、自分の力ではどうしようもできなくて爆発しそうな時自分の目ではなく、神様の目、信仰の目で見るとわたしとみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。

<違って生きようと決心していた信仰の人カレブ>

みなさん！今本文に登場しているヨシュアとカレブを見て見て下さい。今日信仰の目で見ていた彼の報告と告白はどうでしたか。もう一度14章 9節を一緒に読んで見ましょう。

[ただ、主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。]

多数の人たちは“彼らと比べると我々はいなごのようなわずかな者だ！“しかし、小数でしたが、ここで二人の信仰の人たちは“彼らがいくら強そうに見えても、彼らが強大に見えても彼らは私たちにただえじきに過ぎない者だ！”と主張しました。

さあ、ヨセフとカレブがあのような信仰をもつことができた理由について神様はカレブをこう評価されました。14章 24節です。

[ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者と違った心を持っていて、わたしに従い通したので、わたしは彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。]

愛するみなさん！この信仰の二人の中で一人の名前は我々によく知られているでしょう。その人がヨシュアです。イスラエルのモーセの次の指導者として任命され、神の素晴らしい信仰の人物として大いに用いられた人です。そして神様はそのヨシュアを通して御言葉を残しまして今日旧約聖書の中のヨシュア記になりました。ところが今日の本文を見ると、二人の中どちらの方に焦点を合わせているのですか。

そうです。カレブです。このカレブと言う人は偉大な業績(ぎょうせき)を残した人でもなく、先頭に立って人々を導いた指導者でもありませんでした。それにもかかわらず、このカレブは神様とイスラエルの民たちのため非常に重大(じゅうだい)な貢献をした人です。どんな貢献をしたのですか。彼の表はあんまり人々の注目を受ける対象ではありません。平凡に静かに過ごしていた人物でしたが、カレブの心は他の人と違っていました。カレブの内側にはだれより神様への信仰の熱い情熱と変わらない忠実さがあり、絶対信仰の目も持っていた人物でした。このできごとの45年後、カレブが85歳というお年寄りになっていた時にも、相変わらず45年前信仰の偵察者として語った絶対信仰の報告と同じ告白をしていることが分かります。

その御言葉があのような有名なヨシュア記14章12節に書かれています。

「どうか今、主があの日に約束されたこの山地を私に与えてください。あの日、あなたが聞いたように、そこにはアナク人がおり、城壁のある大きな町々があったのです。主が私とともにいてくだされば、主が約束されたように、私は彼らを追い払うことができるでしょう。」

先ほど民数記14:24節で[わたしのしもべカレブは、ほかの者と違った心を持っていた人]と神様はカレブを評価してくださいました。カレブは神の前で他の人と違う生き方を持つと信仰の決心を抱いていた人でした。だから、カレブは[わたしに従い通したので、わたしは彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。]と神様は彼を祝福し、信仰を立たせたただヨシュアとこのカレブだけ神様の約束の地に入ることができました。

カレブはあんまり目立つ人ではありませんでした。多くの人たちの評価もそんなに大事ではありませんでした。だから、みんな“決してできない！と、もうだめだ！と、不平不満と絶望に落ちている時さえも、カレブは“違います。神様に約束されたところ、そして、我々の人生は本当に生きて見る価値がある！ぜひ勇気を出してください。神に絶対信仰を持ってみれば変わりますよ。違いますと！”と言える人、その人がカレブでした。

ですから、普通の人生、平凡な我々もカレブのようにきっとできますよ。かならずそのように豊かに用いられる信仰の者となれると信じます。アーメン！

<まとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの兄弟、姉妹のみなさん！今、みなさんの目の前にはどんな問題の壁がありますか。アナク子孫たちのようにただ自分の力では到底勝てなさそうに見える厳しい戦いや大きなトラブルはありますか。一生続く目の前に待っているさまざま戦いをいつもみなさん自分だけの力で戦おうとすることを今日であきらめましょう。そうすると、いつの間にか絶望になり、信仰に疑いが入って、恐れと不安に落ちてネガティブの人生になってしまうことをいつも覚えて置きましょう。信仰の目を保っていかなければ、自分の力では、結局問題を大げさに考えてしまい神様から与えられていること、約束されていることをあきらめてしまうことなることを覚え警戒して生きましょう。

今日イスラエル民たちのように神様なしで問題を見、揺るぎ始めました。そして、やって見ようとせず、先にあきらめてしまいました。結局その結果、不信仰の人々は誰一人も約束の地カナンに入ることはできませんでした。これがイスラエル民たちの不幸なのです。今日の御言葉を聞いたみなさんはまた今日から与えられ、赦され、生かされている人生をどのように再スタートしようと思っていますか。今日カレブとヨシュアのように神様への絶対信仰の目でみなさんの人生を見、この世を見ることができるよう祝福します。始まったこの8月絶対信仰！揺るがない信仰！実際生活の中で生かせ、働かせる信仰を持って歩むCPC信仰の家族みんなとなりますように主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！！

“主よ。また私も私のために約束された、あなたが与えようとするすべての豊かなものを信仰の目で見れるように、そして、いつも少数だとしても生きておられ、共におられる神様の方に立ち、いつも絶対信仰の方に立てて生ける教会のすべての信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！